

社会実装加速化WGご説明資料

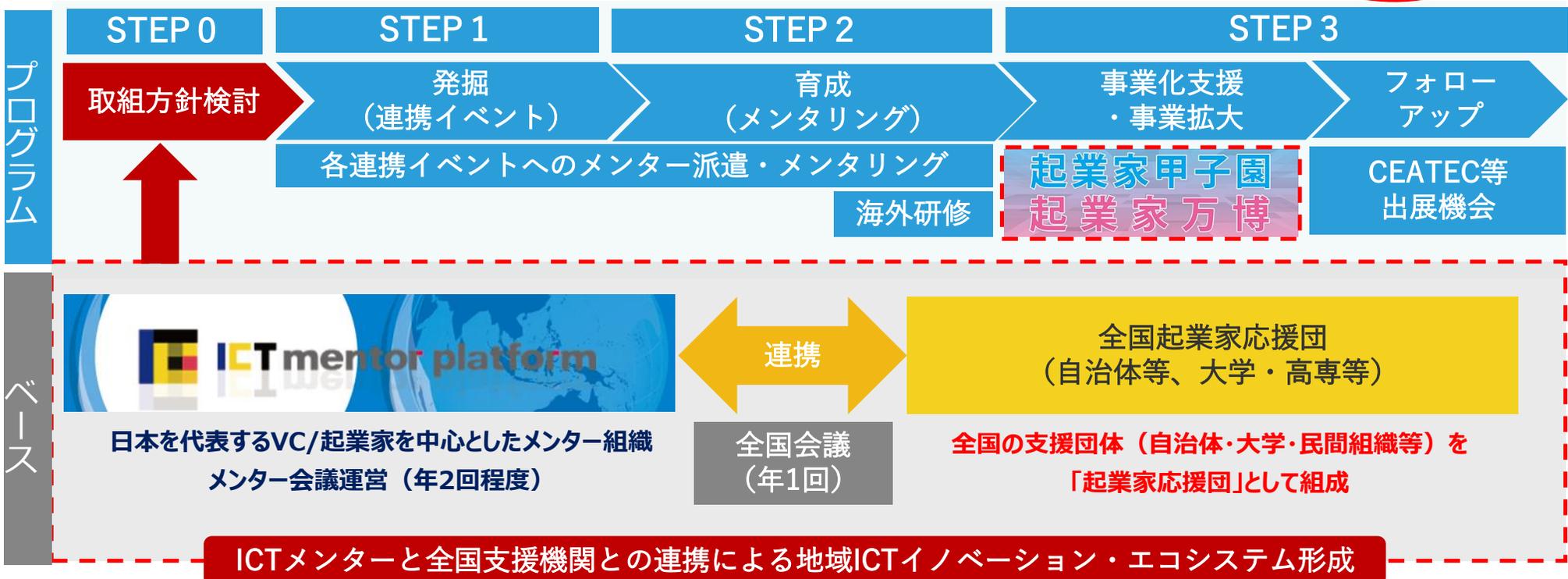
# ICTメンタープラットフォームの取組みへのご提言

2024年12月16日（月）  
ICTメンタープラットフォーム メンター  
フォーアイディールジャパン株式会社  
代表取締役社長  
杉原美智子

# ICTメンタープラットフォームとは

- 2011年に日本を代表するVC・起業家を中心としたメンターを組織化
- 全国の自治体・大学等（以後、起業家応援団と呼ぶ）と連携し、地域イノベーション・エコシステムのあるべき姿を議論
- 起業家甲子園・起業家万博を設置し、全国の連携イベントにメンターを派遣し、地域起業家を選定（発掘）し、担当メンターによるブラッシュアップ（育成）を行い、全国大会を目指す1年間のプログラム
- 若手育成のための海外研修のほか、フォローアップとして出展機会を提供し、地域発グローバルスタートアップの創出を目指す。

ゴール：地域発グローバル  
ICTスタートアップの創出

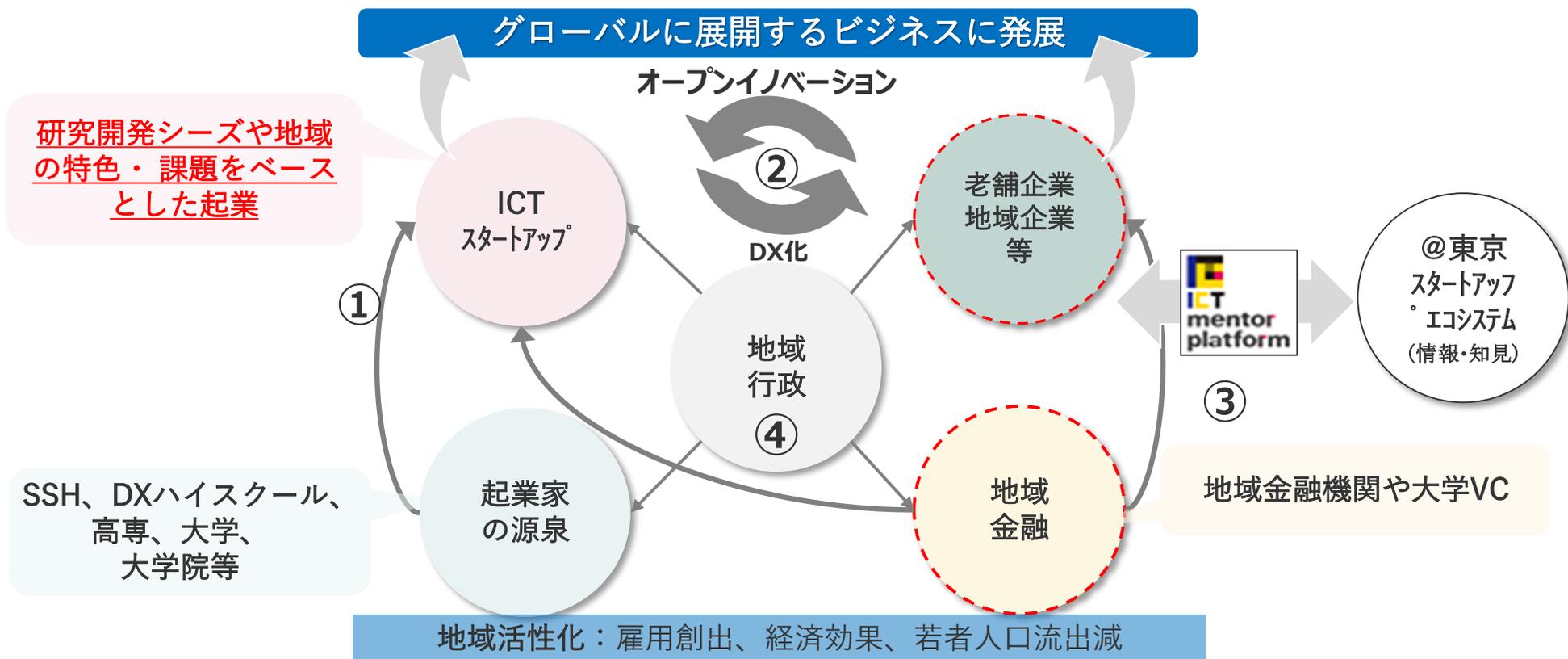


# 「イノベーション・エコシステム」形成を提唱

- 東京だけではない、各地から地域発グローバルスタートアップを創出すべく、**各地の特徴・利点を生かしたイノベーション・エコシステム**の形成が重要であることを提唱

私たちが考える地域ICTイノベーション・エコシステムとは

- SSH・高専・大学といった起業家の源泉から、研究シーズや地域課題をベースとしたICTスタートアップが生まれ、
- 地域老舗企業のDXや地域産業とのオープンイノベーションが進み、
- 地域金融機関や大学VCが資金面を支え、グローバルに展開するビジネスへと成長することでwin-win-winの関係が成立。
- 地域行政がこれらのステークホルダーをシームレスにつなげ、ダイナミックな連携が生み出されるシステムのこと。



# 「共通言語：4つの視点」に基づくコミュニケーション

- 地域発ICTスタートアップの創出・成長の結果、地域産業の活性化につながる地域イノベーション・エコシステムの形成に向け「どのような取組をすれば良いか？」を検討する上の処方箋として、「**シン・産業創出力**」を図る指標を提案
- 地域連携イベントの開催を通じ、各地のレベルアップと成功事例や失敗事例を含めたノウハウを蓄積・伝搬するハブ機能を果たしてきた

- 以下の4つの視点（シン・産業創出力）は、NICTが起業家応援団と連携し、サポートする上での「共通言語」としても活用し、これら**4つの視点に基づき、何が揃っていて何が不足しているのか？を明確にし、各種施策を実施し補完していくよう、各地域と連携**

## 地域からスタートアップが生まれ・成長し、地域産業の活性化につなげるための 4つの視点「シン・産業創出力」

2024更新版

地域から起業家を  
**増やすために**  
必要な要素

### 1 起業家の源泉へのリーチ

大学・高専などの  
研究機関へのリーチ

### 2 目線の向上機会の提供

先輩起業家等のロールモデルの  
提示・接点の提供

+

起業家が  
**成長するために**  
必要な要素

### 3 十分なシード資金の 供給環境の整備

シードラウンドでリード投資  
可能なVC・エンジェル・**地域金融  
機関**・大学ファンドの増額、リード  
投資に向けた巻き込み

### 4 地域の特徴・強みを活かした 協業環境

- ✓ 地域の強み・特有ニーズを  
活かしたPoC機会の提供
- ✓ **協業環境の整備**／等

地域ICTイノベーション・エコシステム

# 地域と連携するイノベーション・ハブ機能

- ・ シン・産業創出力の4つの視点（共通言語）をベースにPDCAサイクルを回し、
- ・ 車輪の再発明を防ぎ、各地のイノベーション・エコシステムの成果を年々積み上げ

## 共通言語「シン・産業創出力」4つの視点

地域からスタートアップが生まれ・成長し、地域産業の活性化につながるための4つの視点「シン・産業創出力」

<b>1</b>	<b>起業家の源泉</b>	<b>2</b>	<b>目線の向上機会</b>
	大学・高専などの教育機関の存在		先輩起業家などのロールモデル

地域から起業家が生まれるために必要な要素

+

<b>3</b>	<b>シードの資金調達手段</b>	<b>4</b>	<b>地域の特徴・強みの磨きあげ</b>
	シードラウンドでリード投資可能なVC・エンジェル・地域金融機関・大学CVC		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 活用したい地域の強み</li> <li>✓ 地域特有の課題の存在</li> <li>✓ 地域企業との協業環境／等</li> </ul>

起業家が成長するために必要な要素

地域ICTイノベーション・エコシステム

各地のノウハウを伝授・最前線の情報を提供

ICTメンター・NICT事務局が現地を訪問



各地のベストプラクティスや失敗事例を蓄積

地域発グローバルICTスタートアップの創出

全国18地域 19会場と連携

※数字確認要



地域連携大会への参加し、地域起業家応援団と連携して取組みをアップデート

## 4つの視点に基づくPDCAサイクル

年1回アンケート

4つの視点に基づく取組状況アンケート調査実施

メンターと起業家応援団が一同に会する全国会議

4つの視点に基づき課題を可視化・解決策を議論

各地で開催される地域連携イベント

地域での取組に反映強化策の実施

共通言語をベースに地域の取組みをアップデート、各地で車輪の再発明をしない！

# ディープテック領域の重要性が増す

- ✓ VCのファンドサイズが大きくなり、グローバルで勝負ができる企業 = ディープテック領域が投資の本丸に。
- ✓ 研究開発型スタートアップの可能性を実感し、大学拠点との連携をスタート

## 大学発研究開発型スタートアップの登壇実績

### 琉球大発

**R5年度起業家万博：総務大臣賞/株式会社シンク・ネイチャー**：沖縄  
設立 2019年8月

- 生物多様性分析レポート「TN LEAD」やネイチャーポジティブ定量化「TN GAIN」等の開発・提供
- ✓ 琉球大学の久保田研究室から生まれ、生物多様性科学分野で卓越した研究業績を持つ研究者たちによって設立

### 東北大発

**R5年度起業家万博：NICT理事長賞/アイラト株式会社**：宮城  
設立 2022年3月

- 強度変調放射線治療（IMRT）計画作成AI「RatoGuide」の開発・提供
- ✓ IMRTの計画作成AIの研究開発を行う日本初の放射線治療AIスタートアップ

## JSTプラットフォームとの連携

大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プラットフォームと連携強化

プラットフォーム名	主幹機関	連携状況
北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC)	北海道大学	済
みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム (MASP)	東北大学	打診中
Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	名古屋大学	済
Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)	九州大学 九州工業大学	認知済
Tech Startup HOKURIKU(TeSH)	北陸先端科学技術大学院大学 金沢大学	交渉中

## ディープテック・スタートアップの特徴・社会実装化の課題

- 日本全国津々浦々のアカデミアや研究所に散らばっている  
→VCがリーチしきれていない
- 研究開発型スタートアップはPMFに時間がかかる  
→PoC協力先が見つけれられていない  
→シード資金（2年程度で2～3億）が調達できない

# 今後の方向性（社会実装加速化に向けた強化策）

4つの視点に基づき、これまでの成果・課題を整理したうえで、今後さらに以下の点を強化していただきたい

## 1 起業家の源泉

### ■ 研究開発型スタートアップを経営面で支える起業家人材の育成・プール

- ➔研究者は研究がしたいのであって、起業したい訳ではない
- ➔将来の起業家人材を育てていく事の重要性

## 2 目線の向上機会

### ■ より強い紐帯・コミュニティの形成

- ➔資金面や経営面には不慣れな研究者が多く、起業した先輩とのネットワークが必要
- ➔研究成果の社会実装化に向けて顔の見える強い紐帯が必要

## 3 シードの資金調達手段

### ■ シードの資金調達手段の接続・強化

- ➔シードでリード投資してくれるパートナークラスのVCとの接点は希薄
- ➔特に、ディープテック領域はPMFまでに時間がかかり、シードで2～3億円の資金が必要

## 4 地域の特徴・強みを活かした協業環境

### ■ 地域における協業機会の整備・強化

- ➔地域中核企業・老舗企業におけるオープンイノベーション・カルチャーの欠落
- ➔地域金融機関のリスクマネー供給環境が未整備

# 社会実装加速化WG ディープテックスタートアップに必要な環境整備とは

2024年12月16日（月）

ICTメンタープラットフォーム メンター

Coalis ジェネラルパートナー / 株式会社マイネット 創業者

神戸大学 客員教授

上原 仁

# 起業家人材への接続と研究成果の探索手段の提供

## ディープテックの重要性

- 起業やスタートアップを取り巻く環境自体がどんどん変化している。スマホアプリやクラウド・SaaS等の領域は、先人たちに取りつくされておき、次なるテーマが見えづらくなってきているのが、今現在のスタートアップの環境。
- 今、**しっかりと長い時間をかけて深い学術研究成果を基にしたビジネス（ディープテック）をはぐくんでいくということ自体が、スタートアップやベンチャー投資の領域において重要なテーマ。**
- ディープテック事業を世の中に展開・価値供給していくには長い時間、大きな資金も必要。ディープテックに取り組む皆さんが、テクノロジーを生かした企画を組んでいる段階から、どのような大企業と組んでいけば この研究価値が一番多くの人たちに広がっていくのか、彼らがどのような研究開発を進めているのか、**戦略的に彼らと組むという進め方が、皆さんの研究価値を世の中に広めるために重要**になってくる。
- **日本の産業界全体の中で、スタートアップや起業家は、いわば 日本の産業界全体の中の研究開発新規事業開発部門。**日本において対外にビジネス開発や営業活動をしてくれる**大企業と組むことで、日本の産業競争力全体、日本全体の競争力を高めていく**こと、それに資することができるまで、今現在の起業、スタートアップ、ディープテックとが歩みを進めることができている。

## ディープテックの社会実装加速化に必要とされる環境整備（仮説）

- 「**起業家人材**」プール：客員起業家（EIR）となる**大手商社勤務者**や**2周目起業家**のプール・コミュニティを形成しディープテックに接続する環境の整備
- **研究成果DB**: 起業家人材がビジネスアイデアを実現する研究開発シーズを探索するための研究成果DBの整備
- **産官学連携**：規制緩和によりマーケットを創出し、戦略的にマーケットドリブンでディープテックを社会実装化／等